

令和2年度「(公財)YMFG 地域企業助成基金」助成先概要

氏 名	浅野 比	年 齢 ※申込時	44歳
所 属	山陽小野田市立 山口東京理科大学	職 位	准教授
申請金額	100万円		
申 請 内 容 (抜粋)			
<p>◎ユビキタス分析試験紙の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、分析試験紙を作成するための主流は、ワックスプリンターを用いる方法であるが、本プリンターは生産中止であり、中古等の装置も日本国内では手に入らず、消耗品などの供給もない状態で、今後の発展、持続性は見込めない。 ・開発途上では環境汚染評価や病気診断ができる高価な分析装置を有する機関は少なく、経済発展の妨げになっている。電力や分析装置を必要としない切手サイズほどの分析試験紙は、環境分析や病気診断にとって非常に有効な手段となる。 ・開発途上等でも普及率が高い携帯電話を用いることで、個人差のない精度のよい分析が可能となる。本研究では、多成分分析が可能な分析試験紙をも用いたユビキタス（どこでも・いつでも・だれでも分析可能）な分析方法の確立を目的とする。 			

令和2年度「(公財)YMFG 地域企業助成基金」助成先概要

氏名	福田 匠	年齢 ※申込時	43歳
所属	地方独立行政法人山口県 産業技術センター	職位	専門研究員
申請金額	100万円		
申請内容(抜粋)			
<p>◎耐高温酸化特性に優れた新たな工具、金型用セラミックコーティング膜の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工具、金型表面に処理されるセラミックコーティング膜には、耐摩耗性や離型性等、様々な機能が要求されるが、近年は工業製品の高速度化もあり、特により高い耐高温酸化特性が要求されている。 ・現状、同センターでは1000℃程度の高い耐高温酸化特性を有するAlCrN被膜を開発し、特許を取得。複数の県内外企業により実用化されてきたが、新たな被膜の開発が必要。 ・ICP支援反応スパッタリング法により成膜されるセラミックコーティング膜の開発について、複数の県内外企業と連携して検討を進めている。 			

令和2年度「(公財)YMFG 地域企業助成基金」助成先概要

氏名	船場 真裕	年齢 ※申込時	40歳
所属	山口大学大学院医学系研究科 整形外科科学講座	職位	助教
申請金額	100万円		
申請内容 (抜粋)			
<p>◎ハイリスク症例に対する新しい脊椎脊髄手術の脊髄モニタリングの開発</p> <ul style="list-style-type: none">・脊髄手術において神経合併症は常に発生しうる危険性があり、術中脊髄モニタリングは必須のツールである。・本研究では、脊髄硬膜外刺激 MEP を経頭蓋刺激 MEP と比較し、その意義と有用性および真に脊髄硬膜外刺激 MEP が必要となれる症例の特徴について新たに検証することを目的とする。・本研究成果によって脊髄硬膜外刺激 MEP の脊髄モニタリングへの応用に向けた一貫した研究基盤を確立でき、近い将来にさらに安全な脊髄手術が可能になると期待される。			